

平成28年度 順天寮事業報告

利用者の障がいの重度化や多様化が進行し、支援にあたり高度な知識や技術が求められる状況が進む中、対応困難な利用者支援に向け、職員研修に積極的に取り組みながら、一人ひとりの能力に応じた個別支援計画に添って、日常生活の支援や作業支援、自立支援を行ってまいりました。

特に、救護施設の役割の柱のひとつである地域移行に向けた取り組みにより、地域生活への移行が進みつつあります。

また、本年1月には新たな社会貢献事業として、生活困窮者自立支援法に基づく「生活困窮者就労訓練事業」（いわゆる「中間的就労」）の実施事業所として知事認定され、保護に至る前の段階の支援実施など、地域の社会資源としての体制を整えてまいりました。

そうした中、地域で生活をするのに、一人暮らしでは不安があるが、若干の支援があれば地域で生活できると考えられる利用者への支援として、グループホームを運営することの必要性が提起され、検討を進めた結果、地元南割区、福岡区との調整をスタートし、本年8月1日事業開始を目指して、準備を進めてまいりました。

また、千寿園・福岡保育園と合同の「ほほえみ祭」などの行事に加え、10月には、改修後の駒ヶ根市民体育館をお借りし、長野県下の7つの救護施設の利用者交流会を当番施設として開催し、利用者、職員が一体となって交流を深めることができました。

施設整備では、老朽化した設備の整備と居室のベット化への対応を順次進めながら、カーテンをリースから購入に切り替え、自らメンテナンスすることにより経費の節減を図ることとしました。昨年度の照明器具のLED化や厨房冷蔵設備の更新などなどの投資効果に加え、利用者を巻き込んだ節電節水の取り組みなどにより、経費の節減効果が出てきております。

結果、事業活動の当期資金収支差額合計は、前年度決算による黒字分のうち500万円を積立支出後でも1,000万円を超える黒字を計上することができました。この収支差額はグループホームの投資に活用するほか、将来の施設整備に備えた施設整備積立金として積み立てることとさせていただきたいと考えています。引き続き、施設の機能強化を図りながら、安定した経営と地域福祉の向上に努めてまいります。